



# なきごえ

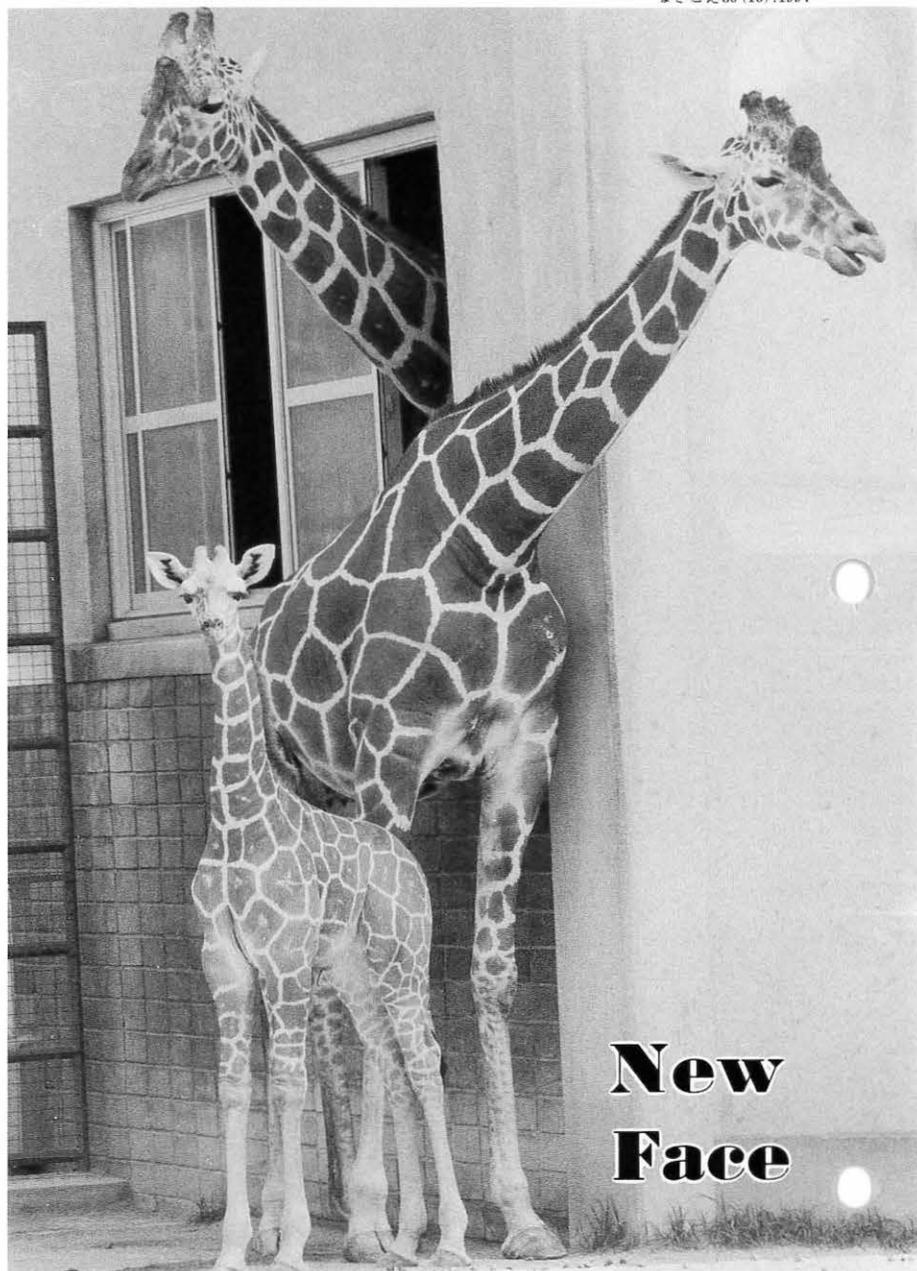


1994

10

OSAKA  AKASO

大阪市  
天王寺動物園協会



(撮影：宮下 実)

- 2 — New Face アミメキリンの赤ちゃん誕生(宮下 実)
- 3 — 動物と私 さわり派(工藤直子)  
カバーウォッチング フタコブラクダ
- 4 — 身近な夜行性動物② タヌキ(和泉 剛)
- 6 — 第20回サマースクールを終えて  
(大阪動物園ボランティアズ)
- 8 — グラフZOO サマースクールの子供たち(中上正幸)
- 10 — ケンちゃんの好きやねん動物園(松葉 健)
- 11 — ZOO DIARY

### カバーウォッチング

フタコブラクダ

ウシ目 ラクダ科

*Camelus bactrianus*

中央アジアに住んでいた野生のものから約4000年前に家畜化されたと言われます。長いマツゲ、開閉自在の鼻孔、砂にもめり込まない足、と色々な点で砂漠に適応した動物です。

(撮影：長瀬 健二郎)

## ||||| 動物と私 |||||

### さわり派

**カ** タツムリの目だま、イルカのおでこ、ゴリラの背中、ネコの前肢の、くると曲がる  
ところ、コガネムシの、柔らかいほうの羽、ウミガメの前ヒレ、フクロウの首のまわりの、ふわふわの毛、ラッコのおなか、タヌキの尻尾の、しっぽの先……まだまだあるのだけれど、きりが無い。

これは何かというと「見ていて思わず触りたくなるものたち」である。動物だけでなく、大木の幹や花などの植物や、布、彫刻、鍋釜の類まで、興味がおきると、とにかくむずむずと触りたくなる。さわってはじめて、そのものと出会った気分になれるのだ。

**農** 学部で学んだ友人がいて、彼女はじつに植物に詳しい。いろんな話を聞くのを楽しみにしているのだが、その彼女は、説明をしながら、ひょいと葉っぱや花びらをつまみでは、かじっている。

「あら、あなたは『かじる』ひとなんだ!」

「なに? それ」

「わたし『さわる』ひとなんです」

ひとの仕種をみていると面白い。なんでもまずクンクンと匂いをかいでみるひと、コンコン叩い



工藤直子さん  
(詩人、童話作家)

てみるひとなど、いろいろいる。みる、聞く、味わう、匂う、さわるなど、ひとにはそれぞれ自分の得手の感覚があり、それを駆使して、いろんなことを確かめようとしているのではなからうか。

そうしてみると、私は「さわる」派だ。カタツムリなどは、見つけるたびに手のひらに乗せ、のびる目だまにツンと触っていたので、カタツムリにとっては、はなはだ迷惑だったろうと思う。

**ゴ** リラの背中など、触ろうにも触れないものについては、(どんな感じだろうな)と想像して楽しむ。で、幸せにも触ったことのある人に会うと「どんなだった?」と質問しまくる。

動物園の方や、動物学をやっている人に出会うと、宝の山に入った気分、「で、それ触ってみました? どんなでした?」を連発する。

まだ触ったことのないものの中で、いちばん想い焦がれているのが「ライオンのしっぽ」だ。

ライオンについては、たてがみを、ぐしゃぐしゃ掻き回してみたい、とか、鼻のあたみを、はじいてみたい、とか、希望はたくさんあるのだが、とりわけしっぽなのだ。

根元の太くたくましくあたりから、すーっと先細りになり、その先にカーテンのふさのような毛が、ぼこりつついている……それを、根元から毛先まで、しゅっとしごいてみたいのだ。……できれば毛先を、ちょっと三つ編みにさせていただいたりなんかして……。

夜、寝床のなかでヒマなときなど、ぼんやりと「ライオンのしっぽしごき」の空想をしている。(そとがわの毛はごわごわしてるだろうな。でもきつと内側の毛は短くて柔らかいかも。毛先の中をまさぐると、骨の手触りもあるに違いない)なんて。——こんな空想が溜まりに溜まると、私はライオンの詩や童話を書きだす。

(くどう なおこ)

### ← アミメキリンの赤ちゃん誕生 ウシ目 キリン科

7月20日に生まれた赤ちゃんはオスで、「マイケル」という愛称をもらいました。母親の「サキコ」はこれが3度目の出産になります。(後方は父親の「ナガヤ」)



★分類・生態★

タヌキはキツネやオオカミなどと同じネコ目イヌ科に属しますが、イヌ科の中では極めて原始的な種とされています。日本に生息するのは本州、四国、九州に生息するホンダタヌキと北海道に生息するエゾタヌキの2つの亜種に分ける場合が多いようですが、見解が統一されているわけではありません。

タヌキは、雑食性で、獲物を捕らえるための特別な行動をほとんど発達させていません。捕らえることのできる動物はほとんど何でも食べますが、ネズミやヘビを捕らえるのが精一杯で、それよりも大きく動きの早い動物は無理なようです。ですから食物は捕らえるのに特別な技術が必要としない小動物が中心で、好物のサワガニ、ザリガニ、タニシや流れ着いた魚などの死体を求めて、池や水田や川岸を探索する傾向が見られます。昆虫の集まる街灯の下も、しばしばチェックポイントに含まれています。植物質も食べますが、甘みのあるものを好むようです。熟して落ちるカキの実は、タヌキにとって晩秋から初冬にかけてのごちそうです。

闘争力が弱く逃げるのも遅いタヌキは、夜間に活動する傾向が特に強く、目の構造も暗いところで活動するのに適しています。とはいえ、よく茂った藪の中など、害敵の目につきにくい場所では昼間に活動することもないわけではありません。

ほとんど年間を通してオスとメスがペアで行動し、育てた仔が独立した後もなお行動を共にする点が、タヌキの大きな特徴の一つです。5月頃に1~8頭(4~7頭が普通)を出産し、雌雄が共同して育児に当たります。6月の下旬~7月頃から親2頭と仔が一団となって行動するようになり、秋になると仔はしだいに親から独立して行き、やがて晩秋には親仔が別の生活をするようになります。栄養条件さえ悪くなければ、初夏に生まれたタヌキは次の年の春には繁殖することが出来ます。巣穴は、キツネやアナグマの巣穴の古いものや使わなくなった部分、あるいは岩のすきまや自然にできたほら穴を利用し、自分で穴を掘る能力はほ

とんどありません。また、よく茂った藪の中で地面に寝て過ごすことも珍しくなく、こうした巣穴や寝場所が普段の行動範囲の中いくつかあって、その日の活動に応じて異なる場所を利用しているようです。

タヌキについて忘れてはならないのが冬ごもりです。ヤマネのように生理的に完全に活動を停止して

しまう冬眠ではなく、冬の間は食欲がなくなり活動も鈍くなって寝ていることが多いものの、暖かで穏やかな天候の日には少しは活動して食物も採る冬ごもりです。ただし、冬ごもりは根雪(春まで解けずに地面を覆っている雪)が生じるのに関連しているようで、かなり寒いところでも根雪の無い地域では冬も活動しています。秋から冬にかけてのタヌキは丸々とよく太り、春から夏にかけてのタヌキはそのイメージにそぐわないほどやせています。大阪府では、北部では冬ごもりをする地域もあるかも知れませんが、ほとんどの地域では活発ではないものの冬も活動しています。

夏の間は食欲がなくなり活動も鈍くなって寝ていることが多いものの、暖かで穏やかな天候の日には少しは活動して食物も採る冬ごもりです。ただし、冬ごもりは根雪(春まで解けずに地面を覆っている雪)が生じるのに関連しているようで、かなり寒いところでも根雪の無い地域では冬も活動しています。秋から冬にかけてのタヌキは丸々とよく太り、春から夏にかけてのタヌキはそのイメージにそぐわないほどやせています。大阪府では、北部では冬ごもりをする地域もあるかも知れませんが、ほとんどの地域では活発ではないものの冬も活動しています。



冬のタヌキは太っている

★フィールドワークの実際★

野生哺乳類の多くはその姿を見ることが難しいので、生息の確認は糞や足跡などの活動の痕跡によってする方法が一般的です。痕跡法、フィールドサイン法などと呼ばれる方法です。タヌキの足跡はネコの足跡に似た形をしていて、一回りおおきく、全体が直径5cmくらいの円に近い形をしています。同じ場所に何度も糞をする習性があり、溜め糞と呼ばれてこれも有力な手掛かりとなります。特定の場所をタヌキが訪れるか否かを調べるには、餌でおびき寄せて活動痕跡をとる方法があります。足跡トラップなどと呼ばれる方法で、およそ1m四方の平地を作ってその中央に餌を埋め、周囲に柔らかい土や草木の灰を撒いておきます。餌に誘われて近づいた動物が周囲に残した足跡によって生息を確認することができます。

具体的な生態を調べる方法は、タヌキを観察し易い場所に餌でおびき寄せ、更には観察者の存在にも慣れさせて直接観察する方法があり、餌付け観察法と呼ばれています。ニホンザルなどの研究



夏のタヌキはやせている

では成果をあげた方法ですが、夜行性のタヌキの場合は観察出来る範囲が著しく限られてしまいます。また、この方法では、餌付けが動物の生活を壊してしまう危険性も少なくありません。

連続観察ができない動物の動きを追跡する方法として登場したのが、動物に電波発信機を付けて追跡する方法です。テレメトリー法とかテレメーター法とか言われるもので、活動の範囲や、時刻と活動場所の関係などを調べることが出来ます。タヌキの活動範囲は、たとえば長崎県の島では8haあまり、金沢のお城の中では5.5haといった数字が出ています。年間を通してみるとオスとメスの差はほとんどなく、タヌキどうしの活動範囲は重なり合っていることがわかりました。

タヌキの活動範囲などを調べる独特の方法として、餌マーク法と呼ばれる方法があります。これは、タヌキの溜め糞の習性を利用するもので、ダイモのテープを1文字ずつ円形に打ち抜き、餌に混ぜて与えます。この円形の文字盤を溜め糞の中



タヌキの溜め糞

から回収して、食べた場所と溜め糞の場所から特定のタヌキがどこまで動いたかを知ることが出来ます。また、この方法によって、1カ所の溜め糞が複数のタヌキによって造られていることや、溜め糞の場所に糞をすることが、自分の存在を主張する、言わば名刺を置く働きをしているらしいことがわかりました。

★生息状況★

本来の分布は、アムール川流域からハノイ周辺に至る朝鮮半島を含む大陸と、日本に限られています。毛皮獣としてヨーロッパや中央アジアに持ち込まれたものがヨーロッパで野生化して、今ではヨーロッパ東北部に広く分布しています。しかし、ヨーロッパでの分布は広くて薄く、いまだに珍獣騒動の種になることが少なくありません。

日本では、ほぼ全国的に分布しています。しかし、生息地がどんどん狭められていることも、全国的な現象と言えるでしょう。

タヌキはイヌに対する抵抗力が極端に弱く、野犬の増加によって絶滅し易い性質を持っています。



タヌキの目はネコよりもよく光る

ます。更にもう一つ、交通事故に遭い易いという困った性質も持っています。タヌキの目は暗いところでも見えるかわりに、近いところしかはっきり見ることが出来ません。道端で近づいてくる車をじっと見つめていて、車だとわかってから急いで渡ろうとします。ところが、運転している人から見ると、じっと見つめて動かないので、一旦ゆるめたアクセルを踏み込んだとたんに飛び出してくることになるわけです。

大阪府は平野部が大きく、しかも早くから開けていたので、近隣府県に比べるとタヌキは少ないと見るべきでしょう。また、植物の状態などから見て、北部でやや多く、南部ではやや少ないものと思われます。中部は平野部が大部分を占め、最も少ない地域だと言えるでしょう。

とはいえ、タヌキは大きな獲物を必要とせず、しかも何頭もが同じ地域を共有して生息できるので、よく茂った森が残っていれば面積は比較的小さくても生き残ることが出来ます。ですから、かなり開けた平野部でも、御陵や神社の森には今でも生息していることが珍しくありません。

★今後の展望★

タヌキは、キツネとともに農村地帯の代表的なけものとして知られてきました。田畑には餌となる小動物が豊富で、時にはタヌキがネズミや害虫を駆除する働きをし、時には作物やゴミ箱がタヌキを餌えから救って来ました。タヌキは農村地帯の生態系を構成する重要な一員であったと言えます。しかし、近年における休耕地の増大は、タヌキをはじめ、かつての農村地帯の生態系を構成していた多くの動物達の生活を苦しいものしています。

国際化がさげられる昨今、日本では「国際化とは欧米のようになることだ」とする誤った考え方が根強くはびこっています。その結果、一般に冷涼で植物の種数も極端に少ないヨーロッパと同じように簡潔で明瞭な環境を造ることが国際的であり、近代的なのだと考えられ、雑多な植物からなる曖昧な茂みは排除される傾向にあります。ところが、その日本の雑多で曖昧な茂みこそ、いろいろな動物が生息し、タヌキが生息するためには大切な環境なのです。立派な木をたくさん植えても、地面の近くにタヌキの餌になるような動植物が豊かでない、タヌキは生きて行けません。タヌキがすむ森は、たとえ小さくても生きもの達の豊かな生きた森だと言えるでしょう。

タヌキが今後も人々となじみの深い野生哺乳類として生き続けることができるか否かは、日本の農業が再建されるか、日本人の意識が本当に国際化されるか、という2つの問題にかかっていると考えています。

(いずみ つよし)

# 第20回サマースクールを終えて

今年も猛暑のなか、7月21日から26日までの6日間、3組に分けて2日ずつの日程でサマースクールが行われました。迷走した台風7号のため、毎日空模様心配させられましたが、おかげで暑さも少しやわらぐ日があり、大きな事故もなく無事

に終了しました。

サマースクールで子供たちの指導と引率にあたっていただいた大阪動物園ボランティアズの各組の代表の方々に感想を書いていただきました。

## 1班 浅野 美信

4年生の学習テーマは「草食動物と肉食動物」で1日目の午前中はラクダ・ラマ・カンガルーとカバの2グループに分れ、午後は全員一緒にゾウ・キリンを学習しました。2日目の午前は2グループに分れてヒョウ・トラとライオン・オオカミを学習し、調理場と飼料倉庫の見学も行いました。午後は2日間で学習した動物の生態や印象を生徒とリーダー全員が各自貼り絵で表現し、最後にそれぞれの絵を示して感想を発表して2日間のまとめとしました。

移動時の空き時間を利用してサル・ヒヒハウス、夜行性動物舎、コアラ舎、鳥の楽園、カモシカ園、爬虫類舎、ペンギン舎を見学しましたし、私たちが作成した「学習動物の生態カルタ」を用いて遊びながら動物の勉強をしました。

友達どうして申し込んだ子供以外は、初めての出会いで、最初少々緊張気味だった子供たちも自己紹介などをするうちに、動物に接するころには余裕もできて、笑顔が見られるようになり、もうすっかり友達になっているようでした。

子供たちはこのサマースクール中に猛獣の目、ヒゲ、爪の動き、ゾウの器用な鼻や足の使い方、

キリンの舌の動きなど動物の細かい行動を至近距離から観察したり、自分で餌を与えて直接接触した動物の口や舌の感触や零下20℃を越える飼料用の冷凍庫をのぞいた体験はいつまでも心に残る思い出となることでしょう。

ラクダがクシャミをして反芻中の草と唾液を顔にかけられたり、ベンガルトラが突然立ち上がった瞬間に尿をひっかけられたりするハプニングはありましたが、大きな事故もなく無事に終了したのは何よりだったと思います。

参加者の男女比などが違いますので、一概には言えませんが、今年参加した子供たちは熱心であり苦勞することもなく対応することができました。

また、終了式が終わって、別れ際にほとんどの子供たちが「サマースクールに参加して良かった。来年もまた来たい。」と言ってくれたのは私たちにとって何よりの喜びとなりました。



ラクダに餌をやりました

## 2班 佐々木 清司

サマースクールを無事に終えて、今はほっとした気持ちです。私にとっては3回目のサマースクールでした。毎回のことですが、サマースクールが始まるまでの準備期間は、少しの不安がある反面、色々な動物を間近に見ることができたり、自分の知らないことを知ることができる楽しさもあります。私にとっては昨年までは先輩ボランティアに指導される立場でしたが、今年は班長として指導する立場となり、いろいろと思案はするのですが、なかなか調整がつかず、飼育担当者の方々と実習内容や実習時間の打合せに手間取り、他の慣れた班員の皆さんに頼り、ご迷惑をか

けたことを反省しています。

そんな中で、不安の残るまま、サマースクール当日を迎えました。私は今回23日と24日の2組目に参加させてもらったのですが、思っていたよりおとなしい子供たちで一安心しました。子供たちは最初はみんな少し硬くなっていましたので、気持ちをほぐそうと試みるのですが失敗に終わってしまいました。1日目の日程が予定通り進行していくにつれて、子供たちもだんだん打ち解けてきて、実習に入るころには少し活発になってきました。そうすると今度は逆に大変です。最初は夜行性動物舎の実習で、餌作りをしました。作った餌を動物たちに与える時に、1人の子供が不

注意にネズミのケージの中に指を入れたため、指先を噛まれてしまいました。一瞬のできごとで詳しいことは分かりませんでした。子供を預かっているという責任を改めて痛感しました。子供の行動はなかなか予想にくいものですが不注意だったと反省しています。しかし、噛まれた子供は痛い思いはしましたが、良い経験になったでしょう。幸いけがの程度は軽く一安心しました。2日目はサル舎の清掃実習とコアラの餌のユーカリ準備でしたが、子供たちも我々も慣れてきたので、あつという間に実習は終わりました。午後の学習のまとめではコアラの飼育担当者の方の発案で、昨年までとは全く違うことをし、子供たちに大人気を博しました。それはオーストラリアの先住民であるアボリジニを真似て顔にペイントを施し、彼らがするようにユーカリの樹皮にサマースク

ルの思い出の絵を割りばしをペンにして描いてもらいました。子供たちの発想は実に豊富で感心させられました。子供たちより我々ボランティアの方が無我夢中でやっていたようにも思われました。

このように私にとっては2日間と短いサマースクールでしたが、子供たちといっしょにいろいろな実習や学習ができ、有意義な2日間を過ごすことができました。反省すべき点も多くあり、今後も子供たちの良き指導者として経験と知識を積んでいきたいと思っています。



みんなでアボリジニに変身

## 3班 広川 由美

6年生の対象動物は、鳥類とは虫類でした。進化の上ではは虫類は人類の先輩です。また、鳥類の多くは私たち人間の憧れである飛翔を行う動物です。スクールと名がつくものの夏休みの子供たちが参加する行事ですので、「遊び」の要素を大切にしました。しかし、種々様々な情報を入手できる現代っ子の中には、学校の勉強より進んだ知識の発見を期待する子供もいます。中学生が習う「進化」のメカニズムを説く子供もいます。来年は中学生といえ、**「大人」といわないまでも、もう大人扱いをしてやらないとそぐわない子供もいます。特に女の子はおしゃまです。当たり前のことですが、ほんとにいろいろな子供がいるので、子供たちをまとめるのにリーダー役の私たちは気を配りました。**

「動物が好き」でも「好奇心がいっぱい」でもどちらでもよいから「自分からやりたい」という気持ちが全面的に出ているといいのですが、親御さんの気持ちが先行している子供では参加にあまり気乗りしていない場合もあります。「子供らしい」「らしい」というのは大人の思い込みで、子供たちも乗らないときは乗れません。私たちが先生役の飼育担当者の皆さんも「アレ？」の気持ちになった場面もありました。もちろんその逆に「あんたら幼稚園児か。」と言いたくなるくらい大はしゃぎの子供たちもいました。

「鳥の楽園」ではバードウォッチングとカモのヒナが成鳥になるまでの経過を学習しました。「鳥の楽園」の中のガンやカモ、シュバシコウやサギ、外で巣を作っている野生のアオサギを望遠鏡や双眼鏡を使って観察しました。ヒナの成鳥経過の学習では、飼育担当者の方にカモのヒナが、水に慣れるように配慮しなければならぬことを教えていただきました。

ペンギン舎ではぬいぐるみのオオサマペンギンを使って、卵の抱き方を実演していただき、ヒナは黒い毛皮をまとっているような姿をしていて、親とは似ても似つかないことを教えていただきました。親と同じ姿になるには1年以上かかるとのこと、お客さんには変な鳥がいると思われるようだとのことでした。サマースクールで学んだ子供たちはそんな間違いはしなくなったと思います。

走鳥舎ではエミューなど自分たちと同じくらい大きさの鳥たちに水をかけてやりました。暑いなか鳥たちも大喜びだし、子供たちにとっても貴重な経験だったと思います。

キジ舎では自分たちが作った餌をやり、小鳥舎ではルリオタイヨウチョウの餌であるネクターという花の蜜の代用餌をなめて、その甘さを楽しみました。子供たちはここで動物を飼うための苦勞の一端を学んだと思います。

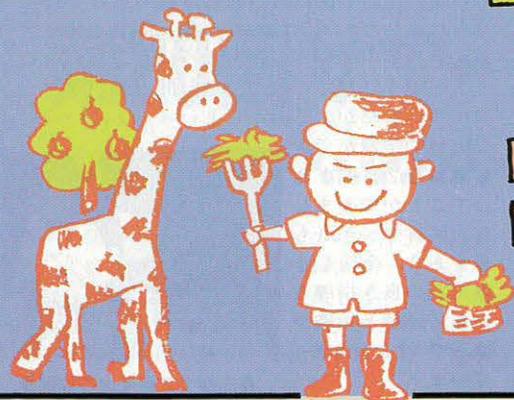
は虫類舎では飼育担当者の方の激励と日頃の自信からくる態度が功を奏してか、ほとんどの子供たちがへびを抱くことができました。私たちはへびのウロコに無意識に気味の悪いヌメリを思い浮かべるのですが、実際はそうではないことを体感しました。「イモリを見たことある？」の質問には、「向井千秋さんの宇宙実験で見たよ。」という答えを返されて、納得してしまう一幕もありました。

何はともあれ参加した子供たちはラッキーでハッピーな2日間を過ごしたことと思います。



は虫類舎ではカメの体重測定をしました

# グランドZOO



# サマースクールの 子供たち



たのしいサマースクール  
園内で「ほっと」一服

今年も暑さのなかサマースクールが行われました。  
子供たちはどんな勉強をしたのかちょっとのぞいてみましょう。



「ぞうさんの鼻は手にもなるんだよ」

近くで  
動物の観察



「キリンの舌は  
なんて長いんだろう」



コアラの餌「ユーカリ」を  
切る子供たち

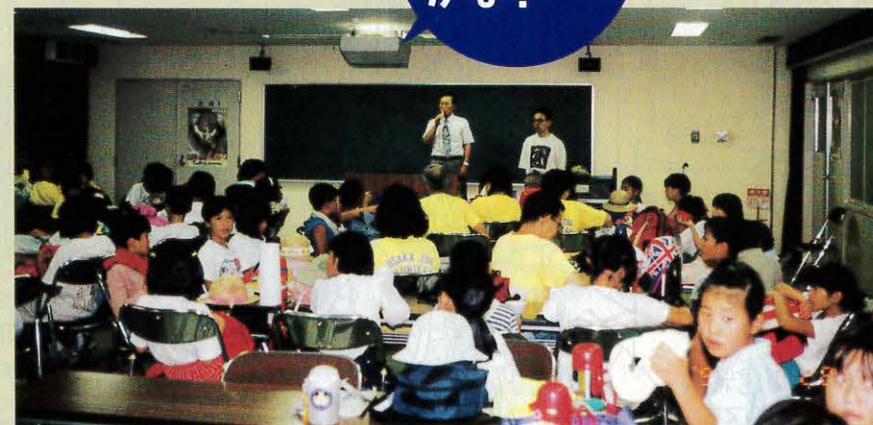


色々な鳥がたくさん

ワーキレー

みんなよく  
勉強できた  
かな？

終了式でのお話



# ケンちゃんのおきねん動物園 マンガ 木公葉 健

## 《爬虫類の仮り住まい》

いま工事中の爬虫類舎は10月に完成しますが、一般公開は、来年の春です。新しい住居に移るまで爬虫類や鳥(外国からきている)たちは5カ所に分けられて一時4又容されていました。



水槽には水 生昆虫が...

ここはもと調理室です。いっぱい並んでいる水槽の中に、それぞれ入っています。



種類が多いので世話がたいへんです。いま4人の飼育係の人が担当しているとか。

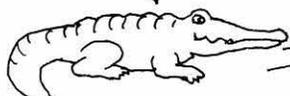


動物病院の4又容室にもイグアナのお客さまがいました。



こちらの4又容舎では外国からきた小鳥やカエルなどがいました。

旧爬虫類舎



いままでの爬虫類舎は、現在も展示されていますが、新しい舎にみんな入るわけではありません。この円型の古い建物は長い間、親しまれてきたもので、私たちの思い出に残るでしょう。



8/ 1. 5月に保護したフクロウなど4種8羽を放鳥しました。

**8月2日** 7月20日に生まれたアミメキリンの“マイケル”を一般公開しました。この



間、休園日に屋外展示場に慣らしながら、もう1頭のメス“ハルミ”との同居も試みました。

8/ 3. 来年オープンする新爬虫類館(仮称)に展示するためのグリーンイグアナ7頭とコモリガエル16頭が入園しました。

8/ 5. 8月2日から元気のなかったイヌワシの検査をしたところ、涙鼻管炎を起こしていたので治療を始めました。ラマの“ホワイティ”が日射病にかかったので、治療を始めました。

**8月6日** 4月に生れたハクビシンの仔の性別判定を行い、2頭ともメスと判別しました。



また、母親が仔育てに専念できるように別居させていた父親を同居させました。

8/ 8. シマヘビ5頭の性別判定を行いました。  
8/ 9. 7月に保護したムクドリを放鳥しました。

**8月11日** 8月5日に日射病にかかり、治療とリハビリを続けていたラマの“ホワイティ”が自力で起立、歩行しました。



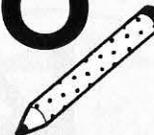
**8月13日** フクロテナガザルが当園では初めて1頭生まれました。残念ながら、母親が赤ちゃんを抱こうとしないため、人工哺育を始めました。



8/14. ハヤブサを1羽保護しました。  
8/15. シロハラミズナギドリを1羽保護しました。  
8/16. ホンドタヌキの子供を1頭保護しました。  
8/19. イノシシの子供を1頭保護しました。

今月もおもしろ情報満載

# ZOO DIARY



- 8/21. 第110回動物園のおじさんのお話で「ゾウのふれ愛ガイド」を行いました。6月2日にふ化したコンゴインコのヒナ2羽のうち1羽が初めて巣箱から顔を出しました。
- 8/23. コサギ、ツバメ、キジバトを各1羽保護しました。
- 8/25. キジ舎で展示しているジュケイが食欲不振になったので、入院させ治療を始めました。
- 8/26. 6月2日にふ化したコンゴインコのヒナ2羽のうち1羽が巣立ちしました。

**8月27日** 昨日に引き続き2羽目のコンゴインコのヒナが巣立ちしました。2羽のヒナは



裸の状態でもふ化し、約3週間後に目が開き羽がはえ始め、約12週間で巣立ちしたことになります。グリーンイグアナ1頭を天王寺警察署の依頼で保護預りしました。

- 8/28. アブラコウモリ1頭とゴイサギ1羽を保護しました。
- 8/30. サバンナオオトカゲ1頭を高槻警察署の依頼で保護預りしました。アメリカのセントルイス動物園の獣医師ミラー氏が来園され、「クロサイの疾病と治療」について講演されました。

### ■お知らせ■

- 秋の動物と花のフェスティバル'94  
日時：10月16日(日)～11月6日(日)  
場所：天王寺動物園
- 動物園のおじさんのお話「動物たちの食事」  
日時：10月16日(日) 午後1時～  
場所：レフチャールーム

愛ある暮らし、応援します。

# Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



## 生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修  
B5変型判・オールカラー  
定価680円

動物園で暮らす様々な生き物達、  
自然の中ではどんな暮らしをして  
いるのか？ 動物園での世話  
の仕方は？ 仲間とは？ など、  
写真と精密イラストをまじえ紹  
介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価680円

### むしくらしかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち  
250種を紹介。

### ちいさないきものくらしかいかた

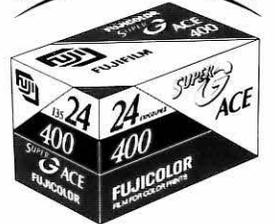
昆虫以外の小さな生き物を320  
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

新・きれいな色

# FUJICOLOR SUPER G ACE 400

新・きれいな色



カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
阪急三番街店 ☎372-5031

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

# 動物文学

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理する  
とともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家  
を紹介した本邦動物文学の母胎です。

<研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載>

会費/年1,500円(切手72円・呈既刊号目次)

## 動物文学会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」  
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)  
好評発売中 ¥800(50度用)

## 天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……



オールカラー

500円 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

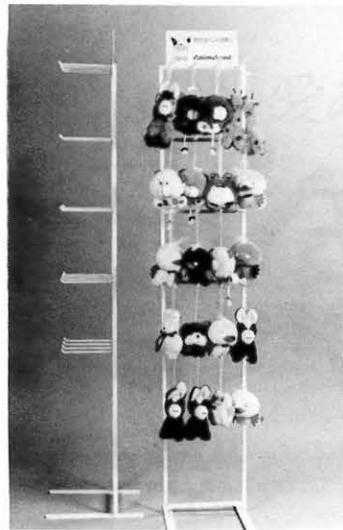
## マスターのポップコーン



<営業品目> 製造機械・保温機 他  
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30  
TEL (06)865-0165



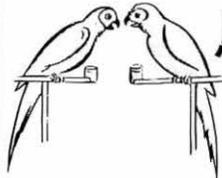


# 動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

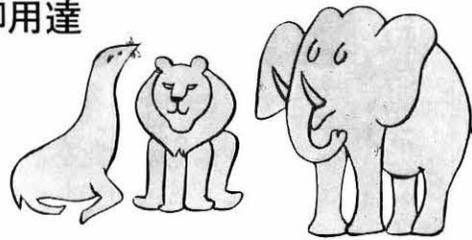
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号  
TEL: (06)704-8580  
FAX: (06)704-8565



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 **吉川商会**

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

### たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数カ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

## 動物園内での お食事、 ご休憩は

動物園内.....

### 中央売店

TEL 06-771-0973



## お食事・飲み物・おみやげ 動物園内 南園売店 TEL06-771-7110



### 思いやり、ほんの少し、コアラのために。



応援してね!



多くの思いやりが、ひとつになって、オーストラリア・コアラ基金を応援します。

多くの人に支えられて育ってきたコアラのマーチ。

一方、コアラのふるさとオーストラリアでは、シドニー近郊の山火事などにより、コアラたちの安住の地が年々少なくなってきています。

そこで、ロッテでは、コアラのマーチ誕生10年を記念するキャンペーンを実施するとともに、

コアラを取りまく環境を守ろうと、オーストラリア・コアラ基金(1986年設立)のゴールドスポンサーになりました。

コアラのマーチを支えてくれる皆様の思いやりがひとつになって、オーストラリア・コアラ基金を応援いたします。

## LOTTE



Our yogurt has fruity  
and rich texture!!

“生イキヨーグル”と  
覚えてね。



いほりたてミルクのおいしさが、生きている。

雪印  
**オガール**

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



HJIRI-KOJIMA

一日  
愉快地  
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社  
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1994年10月10日発行(毎月10日発行)第30巻 第10号(通巻350号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 00930-2-37823

編集委員

(中山良三郎/岩倉善樹/増野祝敏/樽本 勲/中川哲男/山根和弘/吉本昌俊/谷森 進/宮下 実/長瀬健二郎/榎原安昭)  
(森本委利/中上正幸/堀内智生/小林崇宏/竹田正人/大野尊信/野口秀高/早川 篤/土谷正道/村上勇一/仁田原洋)